

3)生の根源性と実践性

3-1 効率と非効率、適正と過剰、生の根源性

省資源で大きなリターンを得る効率と生産性を図る態度が形成される。負荷を与えず多くの栄養を作り提供する健全な感性を起源にもって行われる生産活動に伝わる。一定の線を越え過剰に及ぶと物理合理の破壊的世界を齎せる。無駄の多い非効率と過剰にも同質の感性や性格が起こる。有効に資源を生かせず放置する粗末性と醜態と肥満と制御不能の劣化を招く。こうした面に生の根源性を見る。基準と過不足の適正を作ろうという発想と思考と創造の性格が進む。

3-2 生の根本的な欠陥

堂々と身元を明かして、内外に対面し関係を作る態度を欠いた病理は、生の根源に欠陥を表す。この手の虫けらは深刻な感度をもって削減させる判断が進まないのは慢性化した肥満や病理を伝える。

3-3 非人間性・人格性の喪失

情報技術力の発展に対し、生命人間性が不足し力に振り回された制御不能は過剰な力の保有と活用に陥り、負の因果と循環系を広げ深める。金狂いの経営や強権の政治、墮落の教育研究や宗教という本質性が掴み出される。淡々と始末するインフラが作用しない領域は破壊と消滅の秩序と軌道を押し進める。

3-4 二次三次要素、中枢要素

金が有る、地位が有る、家柄が良い、親戚に有力者が要るなどという副次的要素は関係ない。根本の欠陥は淡々と基準と稼働を図り箍のかからぬ病理を削減し、負の現象と正の推進が滞りなく働き健全な生命を存続する。領域の中枢が病むと二次三次と歪性が拡大し根の深い欠陥が領域全体を支配し個別特定や局所現象と構造性を表す。中枢から切り取り、新たな芽を植え幹と枝葉と体形が再生される。枝葉を剪定し事なきを終える小手先策は悪性が治らず病理が繰り返される。

3-5 怠け者、権限と責務の乖離、保身性過多、肥満症

グズグズして判断を先送りし負の性質が広がり深まり、根を切るしかない状況に狭まれる。根を切り良質を植え再生の道筋が起動する抜本性の作為が要る。全体を消滅させる事無く一部の動力源にあたる要素を消滅させ、全体の再生に働く根を植え幹と枝葉と体形を健全化する。一部の不良が直接間接に病理を加速させる。この一部の歪性を消滅させる態度が必要になる。領域の枢要な地位にある者を淡々と取り換え、全域の適正に及ぼせる要素を枢要な地位に配置する。形式上の地位にある者を変える事。全体が悪くならぬように歪性の動力を始末する事。この判断が遅れると病は取り返しの付かぬ様子を招く。一線を超えた者は異常性になり修復不能であり淡々と切る判断を必須にする。一部の特殊性と異常性は削減し良質はいくらでも現れる。

3-6 インフラ性、主導の性質

身元を公開せずに技術を悪用し、不良を拡大させる生の根本的な欠陥は、淡々と始末するインフラが不動性に存続する。慢性化した病理と動力源を切らないと、歪な二次三次の現象が広がる。自己による自浄性は働かない。力をもって強要する態度が要る。遅れると病理が拡大する。生の根源を壊した病理は淡々と始末する事。基本的な役割に定まる。これを出来ないインフラは悪性の元になる。枝葉を切って終わらない根元を切る事を必須とする。こうした宗教哲学の作為が作動し文化の適正に連なる。枝葉に無駄な力を浪費する判断は抑制し根元に全エネルギーを投じる。親玉を始末すれば領域全体の性質を変容する。

考えを集約し堂々と内外に明示することの出来ないインフラか、各種領域の特徴が現れる。誤魔化し、誤魔化して、慢性化した性質か、メリハリのない愚図な気性か、歪な宣伝と装飾で誤魔化しがきくか。痩せた論理や稚拙な論理と表層の美観で収まるか。粗末な宣伝工作を繰り返す量的力に依存した作為を習慣にするか。歪化した芸能性が領域を支配する主導と秩序か。枝葉が中枢を占める事の不健全が生じる。

3-7 領域の特徴と最良的施策

子供は脅しが働く。成人は子供だましは通用しない。堂々とした論理や考えを引き出す創造力が要る。見た目は成人で中身は幼児か見た目は子供で内実は成人か。トップダウンの強い領域は構成要素に考えもなく、上からの指示命令に疑問を挟まず機能を作る。思考能力がなく身体を作動させる。トップが変われば淡々と従う。勢いと力の原理を常態する。健全な自律性や独立性を求めない力への従属的な体質が強い領域性は、頭から変える事によって精神と身体が変わる。個々の健全な自律と独立、主体性の程度が強い領域の違いを生む。

3-8 部分性と全体性、根本性

意味不明で、理解や納得感、共感に届かぬ言葉は生命力が起こらない。個別部分的、羅列的、断片的、一過的の言葉や論理は不毛性に終わる。体系と周期と持続の集約観を作り、全体と部分の関係が良くわかる包括性の観念をもって長らく良好な生の推進性を実現する。断片・羅列、小出しは一過的部分性の効果に留まる。

3-9 基本原理性と応用

何でもかんでも、ただ力任せに意図を達する作為はマイナス性の影響が増す。領域の特徴に応じ最良の作為は変わる。普遍的不変の尺度を確立し様々な対象を想定して、観測と評価に及び最良的施策を構成し投じる。一様の基準と運用を強める弊害が起こる。基本原理性と応用の利く創造力が作られる。動静の適正を遂げる。

3-10 対処と予防性、生の志向

対処性の作為を進めると同時に予防性の作為が作られる。適正像を積極的に形成し内外への訴求する要素を生む。質の良い言葉や概念の導出と提起は、現象の観測と過不足の算定に回り具体策に連なる。どのような生命力と領域性を求めるか。変わりづらい基本観念が形成される。生の見解が基礎土台性を組み、全体や大局観を反映し個別特定性を作る。個別特定が異様に先走る性質か、基礎の不足した部分最適を作る志向か。長らくの適正には変わらぬ基礎が確立される。

3-11 文化性

マニュアルで動く機械性とサラリーマン化の進行は、健全な生を萎ませる。活動習慣の不健全と領域の歪性を広げる。意味内容がわからぬまま、なにがしかの評価や要望を強める。自己自体が分からず、「なんでわからないのか」などとヒ外界を責め立てるステリー反応を表す教育や主導性と政治性、専門性の歪化は、根本の慢性化した不良を伝える。無機質合理のロボットと人形化した悪性が目立つ。

宗教哲学の見解に落ち着き性がなく、お飾りの的に美を装う性格を作る。感性和概念と精神と身体の分断的な姿が顕在化する。表層の最適を追求し右往左往の激しい物理受動の秩序を広げる文化性を望むか。根源性が歪化し基礎性が崩れ歪な専門性を進め、籐のかからぬ病理を起こすか。個別特定政策を羅列的に示し、体系と周期の集約観に至らぬ場当たり性の表現を乱発させるか。生命の性質が現れる。見識、概念、政策と技能の相関と規則性を生む。根本と基礎の歪な政策と概念、知識量は生の歪性に働く。技能や知識を悪用し動静の悪性を齎せる。

3-12 今日性

今日、「スパイ」という言葉が飛び交う。自国を犠牲に他国と私的性を優先し財を得る生の歪んだ性質を指す事かもしれません。表向きは自国性を装い見えづらい所でまるで逆の反応を作る。上手く騙し賢いつもりでいるようでも、多くの人々には実態が見透かされ票は得られず空回りヒステリーの暴力的手法で生存と成長を企てる。この手の歪性はやがて消滅する基準と運用にあり健全な生と領域を存続する。